岡山県古代吉備文化財センター

所報告備

第58号 平成27年3月〈年2回 3月·9月発行〉

March 2015
Okayama Prefectural Ancient Kibi
Cultural Properties Center

神明遺跡で銅鐸出土!

しんめい 神明遺跡・刑部遺跡

総社市福井・刑部

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道180号(総社・一宮バイパス)改築工事に先立ち、昨年度から刑部遺跡の発掘調査を行っています。さらに本年度は、その西にある神明遺跡の発掘調査も始めました。両遺跡は、古代備中国の中心地である総社平野の北縁に位置します。この2年間の調査で、弥生時代から古墳時代のムラの様子が明らかとなり、神明遺跡では奈良時代の遺構も見つかりました。今回は神明遺跡を中心に、1月までの調査成果を紹介します。

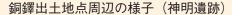
弥生時代では、中期後半から後期後半の集落跡として、竪穴住居21軒をはじめ、掘立柱建物、土 素格墓、土坑、溝、河道などが見つかりました。ここで、マツリに使われたとされる銅鐸(外縁付 鈕式、高さ約31cm、幅約16cm)が出土しました。発掘調査中に銅鐸が見つかることは珍しく、これ が全国で20例目、県内では高塚遺跡(岡山市北区)に次いで2例目となりました。

調査地中央の、周囲より1mくらい高くなった微高地の北端で見つかった銅鐸は、多くの例と同



銅鐸の出土状態 (神明遺跡)







溝に捨てられた土器(神明遺跡)

じように、鰭の部分を上下にして穴の中に埋納されていました。製作時期は中期後半、埋納時期は後期と推定しています。埋納の時期や理由には諸説あり、いまだ謎の多い銅鐸ですが、"神明銅鐸"は、それらを解き明かす重要な資料の一つとなりました。

他にも、銅鐸が使われた時期の竪穴住居では分銅形土製品が見つかり、後期の土坑や溝などからは、壺や器台などの土器がたくさん出土しました。いずれも、弥生時代のマツリに関する資料として、銅鐸とともに注目されます。

さて、古墳時代中・後期には、弥生時代に低かった場所も居住できる土地になったようです。そのため、竪穴住居7軒をはじめ、掘立柱建物、焼けた土坑、溝などが調査地全体に見られます。

続く奈良時代では、掘立柱建物4棟や土地を区画するための南北にのびる溝などが見つかり、その近くでは須恵器や丹塗り土師器などが出土しました。丹塗り土師器は一般の集落では使われないことから、これらは公的施設などの一部と考えられます。さらに刑部遺跡では、県内初となる緑釉

緑彩陶器(平安時代)の破片が出土しました。これは、全国でも出土数が少なく、出土遺跡も国府跡などの国の施設やその関連集落跡、寺院跡などに限られます。

奈良時代以降、総社平野には備中国府がありましたが、場所の特定はできていません。刑部遺跡の東や、神明遺跡・刑部遺跡の南などがその候補地です。今回見つかった遺構や遺物が、それを探る手がかりとなるかもしれません。 (柴田英樹)



緑釉緑彩陶器の皿(刑部遺跡)



南に塀を設けた掘立柱建物(神明遺跡)



神明遺跡現地説明会の様子 9月20日 参加者480名

百間川一の荒手及び背割堤

旭川の水を百間川へと導き入れる分流部には、越流部と巻石部からなる全長約180mの「一の荒手」と、その一の荒手を含む全長約1.3kmの「背割堤」(土手)が築かれています。当センターで

は、旭川放水路(百間川分流部)改修工事に伴って、百間川一 の荒手及び背割堤の構造を記録するための調査を5月と12月に 行いました。

一の荒手の上流側巻石部は、長さ約20m、高さ約4.5mで、その横断面形は上底約5m、下底約12m、高さ約4.5mの台形を呈しています。四角く整形した石を使用する谷積みと呼ばれる積み方で築かれていました。また、巻石の根石の下には不等沈下を防ぐための「胴木」が置かれている場所もありました。

背割堤は洪水によって何回か損壊を受け、そのたびに補修・改修を繰り返していたことが分かりました。また、洪水時に水勢を受ける場所には護岸が施されており、特に一の荒手から約350m下流の旭川側では、高さ約2.5mの石垣の前面に巻石状の石組みを築いた強固な護岸施設が検出されました。これらは、一の荒手の巻石部と同じく谷積みで築かれていますが、転石や割石を横に目地が通る布積みと呼ばれる積み方で積み上げている場所も確認され、少なくとも2回の補修があったようです。



一の荒手の上流側巻石部(南西から)



背割堤の護岸施設(南西から)

上相遺跡・鍛冶屋逧古墳群

美作市上相・中尾

昨年6月、用地買収の関係から最後まで残っていた上相遺跡南東隅の調査を行いました。この場所は出雲街道と併走する古道の東端にあたり、谷へ向かって道幅が広がっていく状況が明らかとなりました。これをもって、平成21年度から実施してきた一般国道374号(美作岡山道路)道路改築に伴う発掘調査は完了しました。

(小嶋善邦)

現在は、これまでの調査成果を報告書にまとめる作業を行っていますが、ここでは鍛冶屋逧B1 号墳から出土した陶棺の復元作業を紹介します。この陶棺は、横穴式石室の石材を抜き取った際に 細かく砕かれ、かろうじて元の形を残していた部分もひび割れていました。強力な接着剤を使用

して分厚いかけらを繋ぎ合わせ、元の形に戻していく作業はやり直しがきかないため、接合の手順や方法など、あらかじめ入念な打ち合わせが必要となります。復元が進んで1mを超える大きさになると動かすことが難しくなり、写真撮影も室内に足場を組んで行う大掛かりな作業となりました。ようやく組み上がった陶棺を眺めてみると、亀甲形の蓋には菱形の文様が捺され、棺を支える脚は楕円の筒形につくられるなど、美作東部の地域色が認められます。

この陶棺、皆様に見ていただければ復元の苦労も報われるでしょう。展示の予定がありますので、ご期待ください。 (氏平昭則)



陶棺の蓋を復元中

センター開所30周年シンポジウム

9月13日(土)午後、岡山市中区の岡山衛生会館で開催したシンポジウムには、数日前に報道された総社市神明遺跡出土銅鐸の公開も相まって、県内外から500人もの方々に御来場いただきました。シンポジウムでは、「倭国の東西 – 近畿と九州 – 」と題して御講演いただいた文化庁の禰宜田佳男主任調査官に、国立歴史民俗博物館名誉教授の広瀬和雄さん、大阪府立弥生文化博物館副館長の秋山浩三さん、岡山県教育庁文化財課参事の宇垣匡雅さん、当センター総括副参事の柴田英樹を加えた5名により、「三世紀の吉備を読み解く」をテーマとして討論が行われました。

禰冝田さんは、出土鉄器が少なく際立った墳墓が認められないことから近畿地方の劣勢を主張する意見に対し、近畿地方でも鉄器製作が行われており調査面積単位で比較すると鉄器の出土量は必ずしも少なくないこと、吉備や北部九州と異なり墓制を重視してこなかった近畿地方だからこそ古墳という新しい墓制を創出することができたのではないかとの考えを示されました。秋山さんも、近畿地方における弥生集落の動態を踏まえた上で、「無人の荒野」に西方の勢力が政権を打ち立てたといった考えには疑問を呈しておられます。広瀬さんは、古墳を同族意識と身分秩序を表現した墳墓ととらえ、大和・河内の首長連合の主導により創出されたと説かれました。これに対し宇垣さんは、吉備に築かれた我が国最大級の弥生墳墓である楯築遺跡において、石材で区画された大規模な墳丘、厳重な埋葬施設、墓上に樹立された特殊器台といった古墳に繋がる要素が既に備わっていることを指摘した上で、亡くなった首長を神として留まってもらうために大切に取り扱うという思想の淵源がここに認められることの重要性を強調されました。

このほかにも、「弥生都市」の評価や歴史学の方法論をめぐって激しく意見が交わされるなど、 吉備のみならず倭国全体を見通した最新の研究成果に、来場された皆さんも興味深そうに耳を傾け ておられました。 (亀山行雄)

津島やよいまつり

10月25日(土)・26日(日)に、岡山市北区の岡山県総合グラウンド内にある津島やよい広場と遺跡&スポーツミュージアムを会場として、津島やよいまつりを開催しました。7年目を迎えた今回は、勾玉つくり・火起こし・石包丁による稲穂の収穫・木の臼と杵を使った籾すりなどの弥生体験、弥生人に変身しての写真撮影、全問正解者はセンター特製缶バッチがもらえる津島遺跡クイズラリーなどを実施しました。2日間とも天候に恵まれ、1,160名の方々が参加してくださいました。

来場者の皆さんには、さわやかな秋空の下で、津島遺跡に親しんでい ただけたことと思います。



缶バッチの図柄



仲良く2人で火起こし



竪穴住居前で弥生人になりきる

いざ出陣! 山城探検隊

11月29日(土)、備前市三石の県史跡三石城跡において、小学5・6年生の児童とその保護者の合計12名の参加による「いざ出陣!山城探検隊-平成二十六年冬の陣-」を開催しました。

登城に先立ち、麓で軍議を開いて、中世山城や三石城の歴史についての話を聞きました。その後、兜を被り、幟を立てた隊列を組み、「いざ出陣!」「おー!」と勇ましい鬨の声を上げて出発しました。早朝までの雨も上がった陽気の中、少し汗をかきながら標高290mの山の頂に築かれた三石城を目指しました。途中、「大手門」「土塁」「堀切」「切岸」「井戸」など、山城の構造を学びながら「本丸」に攻め込み、全員で三石城を攻略しました。

参加者には、「本物」の山城を体感し、御満足いただいたようです。今回初めて開催したイベントですが、県内各地に残る山城を舞台に来年度以降も開催していきたいと思います。



大手門の石垣前での軍議の様子



見事に三石城を攻略!(本丸にて)

講座「古代~中世の考古学」・講演会「考古学から見た古代と中世の社会」

今年度の講座は、古代~中世に焦点を当て、応募いただいた30名の受講生の皆さんと一緒に学びました。第2回では、史跡集風古窯跡群に隣接する寒風陶芸会館を会場として、寒風の土を使った皿作り体験を行いました。第3回は、講座受講生以外にも参加者を募集し、大橋泰夫先生(島根大学法文学部教授)と小都隆先生(広島県文化財保護審議会委員)をお招きして講演会を開催しました。大橋先生には「吉備の国府を考える」、小都先生には「考古学から見た広島県の中世城館」と題する講演をいただき、110名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

	開催日	内容	
第1回	8/23 (土)	講義1:古代の役所 講義2:古代の寺 見 学:センター展示室ほか	
第2回	11/22 (土)	講義3:中世の城 講義4:中世の窯業 実習:寒風の土を使った皿作り	
第3回		講演会 「考古学から見た古代と中世の社会」	
第4回	2/28 (土)	遺跡見学バスツアー (赤磐市大仙山城跡ほか)	



皿作り体験の様子



大橋先生の講演



小都先生の講演





Future From Fukushima.

東日本大震災の発生から4年の歳月が過ぎ、復興調査に伴う担当職員の広域派遣は、平成26年度で3年目を迎えました。今年度は、岩手・宮城・福島の3県、沿岸市町村、財団に派遣された職員は約70名を数え、復興の迅速化を目指し、地元の職員と協力して調査を進めています。宮城県では、高速道路建設や鉄道再建に伴う調査はほぼ終了しましたが、高台移転関連調査は今後も継続し、圃場整備や県道改良などに伴う調査が本格化する見込みです。

派遣2年目となる筆者は、多賀城市の山王遺跡と山元町の熊の作遺跡の本調査、気仙沼市の卯名沢貝塚の確認調査を担当しました。山王遺跡では、多賀城に伴う都市の一角を調査し、奈良~平安時代の道路跡や掘立柱建物などの発見によって、都市の構造や変遷の解明につながる成果が得られました。古代の官衙遺跡と推定される熊の作遺跡では、竪穴住居や掘立柱建物などを調査しました。卯名沢貝塚の確認調査では、結果的に遺構・遺物は見つかりませんでしたが、本調査の要否を判断するという緊張感を持って取り組みました。

さて、私は今回の派遣期間中に、宮城県に限らず各地の被災地を訪れ、更地が広がる市街地跡や、津波の猛威を伝える震災遺構などを実地で見てきました。そして、巨大防潮堤の是非や、新しい街づくりの進め方について多様な考え方があり、資材費の高騰や人手不足も相まって、復興が必ずしも順調に進んでいない現実があることも実感しました。復興庁の資料を見ても、交通網や上下水道などの復旧に比べ、防災集団移転や災害公営住宅の建設は、まだ進捗率が低いのが現状です。



山王遺跡の発掘調査(多賀城市)



^{しんなかながくぼ} 新中永窪遺跡の現地説明会(山元町)

そのような厳しい状況下にあって、発掘調査が 復興の障害とみなされるのではないか、という心 配もありました。実際、当初はそうした報道も一 部でなされましたが、現在では発掘調査も復興の 一環として受け入れられていると感じます。東日 本大震災の被災地には、これまで考古学的調査が 進んでおらず、遺跡の詳しい内容が不明だった地 域が少なくありません。発掘調査によって明かさ れる地域の歴史は、作業員の皆さんをはじめ、地 元の人々にとって自らのふるさとを見直し、愛着 を深めるきっかけとなっています。そして、現地 説明会には毎回100人を超す見学者が集まり、先 人が残した貴重な遺産を目の当たりにして、驚き と喜びの声が上がっています。発掘調査は、復興 と矛盾するどころか、むしろ復興を後押ししてい ることを強調しておきたいと思います。

25年4月以来、発掘調査に携わるだけでなく、 被災地に立って復興のあり方に思いを巡らせ、東 北各地の豊かな自然と文化に触れる2年間でし た。27年度以降も、復興調査と職員の広域派遣は 続く予定です。復興調査による地域の歴史解明 が、引き続き被災地の人々を元気づけ、東北の復 興に寄与できることを願っています。(岡本泰典)

センター収蔵品紹介 vol.17 一西加茂遺跡出土手焙形土器—

吉備地方出現期の手焙形土器

弥生時代後期後半から古墳時代の初めにかけての土器の中に、まれに鉢の口縁部片側半分にドーム状の覆いを被せたものを見かけることがあります。民俗資料の手焙火鉢に形がよく似ているところから手焙形土器と名づけられているものです。

手焙形土器については、大阪河内地方で後期後半段階に出現し、その後も畿内を中心に広く分布がみられ、西日本や東日本では後期終末から古墳時代の初めにかけて広まったとされています。性格についても、土器の内面にススが高い頻度で見られることや、墓や溝等からの葬送儀礼もしくは農耕祭祀に関係した状況での出土事例などから、火を用いたまつり具と考えられています。

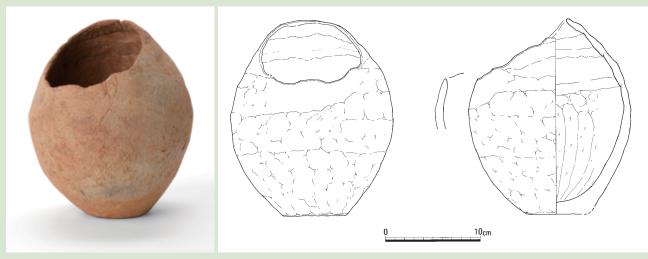
ところで、近年岡山県下では手焙形土器の出土例が増加しており、現在では岡山平野を中心に 150点近い存在が明らかとなっています。この数は、最多である滋賀県と大阪府にほぼ並び、今や 吉備も手焙形土器の出現とその性格を考えるうえで重要な地域になったといえます。

なかでも、ここで紹介する手焙形土器は、他の土器との共伴関係やその在り方などから、その出 現時期の様相を知るうえで注目すべき資料といえます。

この手焙形土器は、吉備の後期前半の上東式土器に共通した細砂を多く混和した粘土を胎土としたもので、平底の底部から約15cmの高さまで粘土紐を重ね成形した後、さらにこの上部に板状にした粘土を片側のみに長さと幅を減じながら重ね続け、覆いとしています。この結果、全体が卵形を呈するその上部に斜傾した楕円形の窓が開いて、容器としての土器には見られない一風変わった姿を見せています。

出土したのは、足守川下流域の足守川加茂B遺跡から東に約200mの地点に所在する西加茂遺跡の集落西側に開削された溝で、土器は溝が埋没する過程で一括廃棄された後期後半(後・Ⅲ)段階の数多くの土器類と共に出土しています。共伴した土器の年代観から、また胎土や色調などこの土器の特徴からは、この手焙形土器は県下で最も古い段階のものと考えることができます。

性格については、この土器には残念ながら考える明瞭な手がかりは見られません。しかし、この他に確認できた手焙形土器115点中、実に80点の内面に二次的な熱影響により変色した痕跡が認められることから、手焙形土器は通説どおり火に関係した道具であると考えられます。では、実際に手焙形土器が何に使われたか。その具体的な用途は不明と言わざるをえず、この解明には今後のさらなる資料の増加と出土遺構の検討を待たなければなりません。 (島崎東)



岡山市北区西加茂遺跡出土の手焙形土器 中・右は実測図 (S=1/4)

平成26年度課別事業一覧

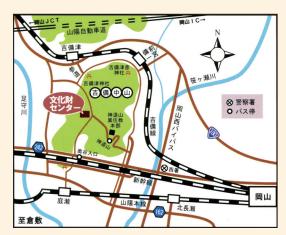
〈試掘・確認・発掘調査等〉

課	遺 跡 名 (所 在 地)	調査原因	種別	調査の内容・成果	調査期間調査面積
	未周知	一般国道2号(玉島笠岡道	試掘	5か所のトレンチを設定。遺構・	4/17~4/30
	(笠岡市西大島)	路)改築工事		遺物ともに確認できなかった。	60m²
	里庄町No.92散布地	一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事	確認	3か所のトレンチを設定。弥生時	5/12~5/14
	(里庄町新庄)			代及び中世の遺構・遺物を確認。	18m²
	百間川一の荒手及び背割堤	旭川放水路(百間川分流部) 改修工事	確認	6か所のトレンチを設定。江戸時代	5/16~5/30
	(岡山市中区中島地先)			以降の巻石部下部構造や石垣を確認。	283m²
	岡山城跡	岡山県備前県民局新会議棟 (仮称) 設置	確認	2か所のトレンチを設定。江戸時代の	6/10~6/11
	(岡山市北区弓之町)			南北方向に走る溝と瓦溜まりを確認。	16m²
	鴨方町No.189・190散布地、土居遺跡	一般国道2号(玉島笠岡道路)改築工事	確認	8か所のトレンチを設定。中世の 柱穴を確認。	6/16~6/26
調	(浅口市鴨方町六条院西)		1年100		48㎡
査第一	岡山城跡	県警本部庁舎建設	確認	2か所のトレンチを設定。江戸時 代以降の土坑や瓦溜まりを確認。	7/22~7/28
	(岡山市北区内山下)				14.6m²
課	未周知	一般国道53号(津山南道路) 改築工事	試掘	6か所のトレンチを設定。古墳の 石室及び周溝を確認。	10/14~10/17
	(津山市福田)				22.8m²
	岡山城跡	岡山県職員北駐輪場整備工事	確認	3か所のトレンチを設定。江戸時 代の複数の遺構面を確認。	11/5~11/10
	(岡山市北区丸の内)				24m²
	百間川一の荒手及び背割堤	旭川放水路(百間川分流部) 改修工事	全面	3か所のトレンチを設定。背割堤の構造を調査。	12/1~12/25
	(岡山市中区中島地先)				625.6m²
	特別史跡旧閑谷学校	特別史跡旧閑谷学校石塀等	確認	基礎構造物は確認されなかったが、	12/24
	(備前市閑谷)	修理工事		整地土層を検出。	1.7m²
	百間川米田遺跡	遺跡範囲確認	確認	3 か所のトレンチを設定。一部で 弥生時代~中世の溝を確認。	1/19~1/26
	(岡山市中区米田地先)				24㎡
調	上相遺跡	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	全面	出雲街道と併走する古道を調査。	6/2~6/13
調査第二課	(美作市上相)				340m²
	中世城館跡	岡山県中世城館跡総合調査	分布	岡山市、吉備中央町、勝央町内を 調査。	4/1~3/31
課	(県内全域)				_
調査第三課	刑部遺跡	一般国道180号(総社・一宮 バイパス)改築工事	全面	弥生時代中期~古墳時代中期の集 落を調査。	4/1~3/31
	(総社市刑部)				3,560㎡
第三	神明遺跡	一般国道180号(総社・一宮	全面	銅鐸埋納坑や弥生時代中期~古墳 時代中期の集落を調査。	4/1~3/31
謀	(総社市福井)	バイパス)改築工事			9,880m²

〈報告書作成・刊行〉

課	報告書作成(遺跡名)	刊行報告書(遺跡名)			
調査第二課	一般国道374号(美作岡山道路)道路改築(鍛冶	県報告241(百間川原尾島遺跡)			
	屋逧A古墳群ほか)	宗報日241 (日1月川原尾岛虔助)			

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集·発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3 TEL(086)293-3211 FAX(086)293-0142 http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm

●交通案内 JR 山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分 JR 吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業 務 時 間 AM8:30~ PM5:15

●休 業 日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00~PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。 ただし、臨時に休館することがあります。







